海軍軍属の出張により戦死の思い出

葉山町支部　小峰　ミサ（妻）
戦没者　小峰　俊雄
戦没地　クエゼリン島

昭和十六年二月に結婚し夫の家の近くに家を借り夫婦二人の生活が始まる。

夫の勤務先は横須賀海軍造兵部水雷工場に義父と共に勤務していた。初めての出張は兵庫県神戸市に住み大阪機工であった。その後千葉県木更津へはしばしば出張し、南方へはサイパン、マーシャル群島及びマレーシアへ三ヵ月昭南島（シンガポール）へ三ヵ月と出張つづきでした。昭和十八年六月に三回目の南方出張はどこへ行くかは秘密であり、今回はすぐには帰れないといわれ、今までの出張と異なり神社の祈願や東京巣鴨のとげ抜き地蔵のお守りを持たせました。今までの出張ではお守りなど嫌がった主人が素直に受け取りました。

昭和十八年六月十八日に横須賀港逸見波止場正門まで私と一歳になる子供と実家の母親と見送りにいった。横須賀海軍工廠及び田浦海軍工廠の軍属の二十四名を引率して出発した時、「体に気をつけて、手紙を必ず下さい」とお願いし別れを告げた時、子供が急に泣き出し、イヤな予感がした記憶があります。

©2011_財団法人神奈川県遺族会

夫の死後、海軍工廠の人達から聞いたところ南鳥島に行き硫黄島に渡りそこで海軍工廠から一緒に出発した二十四名の部下と別れ、夫はクエゼリン島へ渡りそこで玉砕したという事である。

夫の出張期間中私は実家に住んでいた。先の戦死の公報を義母が泣きながらもってきた。海軍工廠水雷工場の同僚の山下国男氏より「クエゼリン島が玉砕して水雷工場派遣員二名の戦死者が出て、その一人技術面で私の恩師であり兄のような存在だった小峰さんが遂に帰らぬ人となってしまった。」とお手紙をいただいた時のショックは忘れる事の出来ない気持ちでした。

私は横須賀海軍工廠の久里浜事務所へ子供を背負い何度も足を運び、尋ねるとクエゼリン島には九十名の捕虜がいるとの事、私はもしかすると生きて帰ってくるかと思い寂しくなく働くうちに工廠の上役のかたから小峰君は捕虜になるような人ではないと言われ、遺骨を早く頂きたいと申しあげました。

そのうち終戦となり昭和二十一年に横須賀市曹洞宗「良長院」へ私と義兄、義弟の三人で遺骨を受け取りに行った。大変軽かった箱を渡されるとき絶対に開けないで下さいと言われました。葉山町葬儀は昭和二十一年四月五日「光徳寺」にて戦死者四名一緒に行われ「町葬はこれが最後です。」と言われました。

その後小峰家の本家より墓地をいただき昭和三十一年二月に墓石を建て埋葬致しました。

昭和四十一年五月二十八日に亡き夫に、勲八等白色桐葉章をいただき、その際、私に「お体に十分気をつけて後を頑張ってください」とお言葉を頂きました。

この手記は戦中戦後厳しい荒波に必死で生きてきた戦争未亡人の手記であります。

©2011_財団法人神奈川県遺族会

主人は出張出張と仕事に追われ家庭を顧みる暇もなかったようですが私の心の中には今も生きています、私は未熟ながら葉山町遺族会婦人部長を長く務め、神奈川県遺族会も皆様のお力を頂きながら務めさせて頂きました。

私の今あるのは皆様の暖かいご指導とご援助の賜と深く感謝し、今日ここにお世話になりました方々に御礼申し上げ一筆書かせて頂きました。

誠に有り難うございました。

©2011_財団法人神奈川県遺族会